



中村俊定文庫
文庫 18
8
2



禮
玉
履
祭
司
冬
秋

地



秋

秋のりら一葉ふらりのまはの
流るるして一葉ふらりのまはの
流るるして一葉ふらりのまはの



日

秋のりら一葉ふらりのまはの

七

八日
秋のりら一葉ふらりのまはの
流るるして一葉ふらりのまはの
流るるして一葉ふらりのまはの

元はてしなくの心か

模

羽衣のりねり

40のち

らとわさるあまのきつと花の
たしとていへりいれと花の
う海あまのなむりく野のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち

山のあまのち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち

40のち

花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち

月

花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち
花うしあやうと花のち

月々ゆき川 雲霧しほる 柳戸か
林の月おら 花とさくし 雁しりみ
月々おら 霧しほる 林のうら
ふたし 月のおら 柳のふた
け 月のうら くれとさくし 雲霧し
破の雲おら 花とさくし 雁しりみ
秋の雲おら 花とさくし 雁しりみ
中々ありとさくし 月のうら
やうし 入月おら 雲霧しほる
とらすも 花とさくし 雁しりみ
岸や 行の月おら 花とさくし 雁しりみ
ふたし 月のおら 花とさくし 雁しりみ
のうら 花とさくし 雁しりみ

月々ゆき川 雲霧しほる 柳戸か
林の月おら 花とさくし 雁しりみ
月々おら 霧しほる 林のうら
ふたし 月のおら 柳のふた
け 月のうら くれとさくし 雲霧し
破の雲おら 花とさくし 雁しりみ
秋の雲おら 花とさくし 雁しりみ
中々ありとさくし 月のうら
やうし 入月おら 雲霧しほる
とらすも 花とさくし 雁しりみ
岸や 行の月おら 花とさくし 雁しりみ
ふたし 月のおら 花とさくし 雁しりみ
のうら 花とさくし 雁しりみ

あての東と西月と月のはらり
争つらあしさうてはれああ
みらあぬ月も思ふあはれ
たしむあまこよひめては
約人のあまこよひめては
すてあまこよひめては
志本の板のほろ橋あら
見よあまこよひめては
師てあまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては

あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては

あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては
あまこよひめては

乃りてをらぬ

行ふ世のらにきくは林の月
のまきしは新くこころのほろ月
月こころひらてあきらめをかく
みめはみぬをこころひのこころ
やそはあきらめをこころひのこ
花あきらめをこころひの月とそ
花

首

あのみあきらめをこころひのこ
うの月とそは新くこころのほろ
まの首をこころひの月とそは
花

碁

あきらめをこころひのこころひの
まの首をこころひの月とそは
碁

おま

あきらめをこころひのこころひの
まの首をこころひの月とそは
おま
あきらめをこころひのこころひの
まの首をこころひの月とそは
おま
あきらめをこころひのこころひの
まの首をこころひの月とそは
おま
あきらめをこころひのこころひの
まの首をこころひの月とそは
おま

菊の花をいふにふりておかしきことあり
一枝のまゝにやぬさむとてうらみのうち
りやまゝにこれむやあまの北の菊
深き水の白ひとちかぬ菊の庭
本はよるをくもてもちぬ菊の
花のよもふ年こそあれうらみの菊
まゝにまゝに花やあゝ菊あゝ松

内面

あられありありとてふささの御あり
秋のふれ下やしらけの谷のしき
秋むしをいふに深きことあり

九月書

けり秋のらけをいふにささの御あり
秋のまゝにやぬさむとてうらみのうち

雜句

あゝこれ花のしきをいふにささの御あり
けり秋のらけをいふにささの御あり
秋のまゝにやぬさむとてうらみのうち
秋のりやまゝにこれむやあまの北の菊
深き水の白ひとちかぬ菊の庭
本はよるをくもてもちぬ菊の
花のよもふ年こそあれうらみの菊
まゝにまゝに花やあゝ菊あゝ松

春は都のなる秋ある 雲の
らのくくられる 丹あ 雲
都をけいふあ 風のこと
か 終りし ありと 所の 山田
枯風のこをれ しのあ 夕
と しく した 苗代 ちり たり 田
あ しく ぬの あり せ あり 田
山 ねら 秋 しく なる 田
何 しく あり しく 田 橋
秋 暮 暮 暮 秋 の あり
秋 ぬり あり しく 田 橋
風 ちり 秋 あり しく 田 橋
る ちり 秋 あり しく 田 橋

みく海つ 海風を 秋の海
身は びたり 海風の 潮
うわ しの 入り ちり 秋
橋 下 あり しく 田 橋
ちり 秋 あり しく 田 橋
秋 あり しく 田 橋
始 暮 暮 暮 秋 の あり
秋 あり しく 田 橋
秋 あり しく 田 橋
入 あり しく 田 橋
の あり しく 田 橋
の あり しく 田 橋

岸の草花を採りて花をうらむや柳一木
字橋をほそてししむむ村のよき

矢

時ぬ

橋の草花を採りて花をうらむや柳一木
岸の草花を採りて花をうらむや柳一木
字橋をほそてししむむ村のよき

十

いほりりれけぬや青おすあおのを
越の音こころはほろりしとれ
うらめしむむまはれ梅海のさしぬ
ゆりてくこころあやほりりりり
室をりりりりりりりりりりり
と音さあしとれとれとれとれとれ
やのあしとれとれとれとれとれ

お

ゆりりりりりりりりりりりりりりり
おのりりりりりりりりりりりりりり
風さあのをさあのをさあのをさあのを
くしとれとれとれとれとれとれとれ

おれ、又、鷹のあし、み、田、う、
おれのた、う、り、久、く、一、身、心、を、こ、
う、う、り、う、り、と、橋、を、く、く、た、よ、り、の、

落葉

橋、を、お、た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、
た、た、り、た、あ、の、あ、り、を、お、

おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

強菊

おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

本枯

おら、あ、り、て、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

朝霧の漸やけさこころいふ花の
あけはきつ流るるはらこの井は
あけあけて岸たりたう流る
流るあけはきつあけあけ
とたあけはきつあけあけ

水鳥

夕子あけはきつあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ

暁風や流るるあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ

神楽

あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ

早梅

あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけ



此一卷不自然亦宗祇以彙自
清音直一掃主人之韻音而免
亦予之書寫

福力庵

村徑

己亥仲秋上院日



宗祇俗名三性三善飯尾善六為清
紀伊國人也後程玉庵又自然亦云
種誤





